

## 道路25 国道197号の一次改築(愛媛県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
愛媛2	建設省四国地方建設局大洲工事事務所編「大洲工事五十年史」(建設省四国地方建設局大洲工事事務所、1994年)、192頁、212頁	国道197号日吉・高研地区 (中略) これにより、トンネルが高研山トンネル(延長1,562m)外7箇所、延長3.9km、橋梁20箇所延長1.4kmを含み、計画延長は16.9kmとなり、現道延長に比べ9.3kmが短縮された。また、高研山トンネル坑口の標高も495mと低くなり、冬期における交通障害も大巾に改善された。
愛媛20	愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史地誌Ⅱ(南予)」(愛媛県、1985年)、317頁	国道197号八幡浜バイパス 旧国道は八幡浜市の中心部において幅員約四mの一方通行区間を有する非常に交通の輻輳する所であった。新ルートは八幡浜バイパスは、これを避けて市の中心部の東西方向に張り出している愛宕山にトンネルを抜き、市中心部をバイパスしようとするものである。当バイパスの完成により、道路延長は実質で一四〇m、所要時間は約五分短縮された。
愛媛95	野村町誌編纂委員会編「野村町誌 完結編」(野村町、2009年)、160頁	国道197号・国道441号の整備 (中略) これにより、野村町内の主要幹線道路である国道(197・441)2路線の整備が全て完了し、車両交通の安全が図られるとともに、松山自動車道へのアクセス道路として利用されることで、輸送時間の短縮や大型車による物流の効率化が進み、地域住民の生活の利便性が向上し、産業、経済、文化、観光などの活性化に大きく貢献することが期待されている。
愛媛101	保内町誌編纂委員会編「改訂版 保内町誌」(保内町、1999年)、872頁	国道197号佐田岬メロディーライン (中略) 新国道は、三崎半島山頂を通り、宇和海と瀬戸内海の眺望も絶景で、メロディーラインと呼ばれ、かつての「酷道イクナ線」のイメージを一新して、絶好のドライブコースとして親しまれている。 道路整備の進捗と共に車の通行が増加し、従来の名坂トンネルは、幅員が狭いうえ車道と歩道の区別がなく、歩行者の危険が指摘された。そこで、一九八二(昭和五十七)年自転車と歩行者専用のトンネルが完成した。これにあわせて国道の歩道も整備した。
愛媛104	続伊方町誌編集委員会編「続 伊方町誌」(伊方町、2005年)、157頁	国道197号佐田岬半島道路 (中略) この完成により八幡浜市～三崎町間は、距離にして一五・五キロメートル、時間にして六〇分の短縮となり地域の産業・観光を活性化し本町住民の生活にも大きな変化をもたらした。
愛媛135	西宇和郡町教委連合会編「西宇和のくらし」(西宇和郡町教委連合会、2000年)、104-105頁	国道197号佐田岬メロディーライン (中略)そこで、昭和47年から、佐田岬半島の山の上にバイパスをつくる工事がはじまりました。山にはトンネルをほり、谷には橋をかけ、カーブをゆるやかにするなどして昭和62年に開通した国道197号線は、佐田岬メロディーラインとよばれ、かん光の名所となっています。 また、三崎町と大分県の佐賀関町の間を通うフェリーポートと合わせて、四国と九州とをしっかりとむすびつけています。
愛媛136	伊方町教育委員会編「伊方のくらし」(伊方町教育委員会、2015年)、60頁	国道197号メロディーラインの開通 (中略)メロディーラインが全線開通すると、沿岸航路の船はなくなってしまいました。 今では八幡浜や大洲まで、車で通勤や通学ができるようになり、とても便利になりました。しかし、地元で買い物をしなくなるなどの問題点も出ています。

## 道路25 国道197号の一次改築(愛媛県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
愛媛147	国土交通省四国地方整備局編「一般国道197号鹿野川道路について」(平成16年度第2回事業評価監視委員会資料、2004年)、5-13頁	<p>国道197号鹿野川道路の事業効果</p> <p>(1)走行時間の短縮 鹿野川道路の供用で、肱川町、野村町から大洲市までの所要時間が約7分短縮されるとともに、線形改良等により快適な走行が可能となった。 また、鹿野川道路や高知県との県境付近の「日吉・高研地区」、高知県側の「布施ヶ坂地区」等の周辺道路の整備により、大洲市から須崎市の所要時間は約11分の短縮が図られた。</p> <p>(2)交通拠点へのアクセス向上 特急停車駅である伊予大洲駅、大洲IC等の交通拠点へのアクセスが向上した。 高速道路等の整備と相まって大洲IC～松山空港の所要時間が約86分から約70分へと約16分短縮され、第二種空港である松山空港までのアクセスが向上したことから、より移用しやすくなった。</p> <p>(3)物流の効率化 国道197号を生活道とする鹿野川地区の肱川、野村、城川の3町では、総世帯数の約87%が農林業を営んでいるが、当地区の現道は線形不良や幅員狭小で農作物の運送に支障をきたしていた。鹿野川道路等の整備効果による運送時間短縮で生鮮野菜の出荷が可能となり、また、四国縦貫自動車道や大洲道路と連絡することで大洲市、松山市をはじめとする四国全域、さらには九州・本州方面への広域的なネットワークが形成され、その所要時間短縮により農作物の流通の効率化が図られた。 鹿野川道路は整備後に「25t指定道路」の指定を受け、大型車の通行が可能になった結果、円滑な交通の確保により大型車の交通量が約1.6倍に増加し、物流の効率化が図られた。</p> <p>(4)日常生活圏中心都市へのアクセス向上 鹿野川道路や、高知県との県境付近の「日吉・高研地区」、高知県側の「布施ヶ坂地区」等の周辺道路の整備により、大洲市(八幡浜・大洲地方生活圏)～須崎市(高幡地方生活圏)の所要時間は41分の短縮が図られ、県境での交通量も整備前後で2.5倍程度増加しており、県境を越えた、地域間交流がなされている。 鹿野川道路の供用により、鹿野川地区から日常生活圏中心都市である大洲市への所要時間が約40分から約33分へと7分間短縮され、アクセスが向上するとともに、宇和島圏域の日吉村や広見町からも、買物やレジャー客が鹿野川道路を利用して大洲市へ行く機会が増加している。</p> <p>(5)観光地へのアクセス向上 南予地域には多数の観光地が点在しており、鹿野川道路の整備後、観光客数が約3倍に増加した。 また、松山市内から大洲市、鹿野川地区を経由するか、さらには日吉村を経由し四国カルストに訪れて松山方面へ戻る日帰り観光ルートが確立され、大勢の観光客が訪れるようになった。</p>

## 道路25 国道197号の一次改築(愛媛県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
愛媛147	国土交通省四国地方整備局編「一般国道197号鹿野川道路について」(平成16年度第2回事業評価監視委員会資料、2004年)、14-19頁	<p>国道197号鹿野川道路の事業効果</p> <p>(6)二次医療施設へのアクセス向上 鹿野川道路の供用で、西予市消防署野村支所から大洲市までの所要時間が約7分短縮されるとともに、線形改良等により快適な走行が可能となった。その結果、より高度な医療施設が整った市立大洲病院を始め大洲市内の二次医療施設へより早く安全に救急患者を搬送することが可能になった。</p> <p>(7)安全性・快適性の向上 現道区間は道路線形要素が特に悪く曲線半径30m以下の箇所が55箇所あるため、特殊車輛の通行はできなかった。また、普通貨物車は譲り合いながら通行していた。鹿野川道路の整備により道路線形の改良と道路幅員の確保、歩道設置等により、安全性・快適性が向上した。</p> <p>(8)災害時の信頼性の向上 国道197号は、愛媛県の緊急輸送道路ネットワーク計画における「第一次緊急輸送道路」の一部を担う路線であり、鹿野川道路等の整備により、災害時の物資輸送等のための信頼性が向上した。</p> <p>(9)通行止めの解消 旧道は、防災上の危険箇所が32箇所あり、災害による道路寸断で通行止めになることが多かったが、鹿野川道路の供用により災害等もない安全なルートが確保された。</p>
愛媛206	建設省四国地方建設局大洲工事事務所編「南予一大洲工事事務所50周年記念誌一」(建設省四国地方建設局大洲工事事務所、1994年)、40頁	<p>国道197号佐田岬半島道路 (中略)昭和六十二年、この線最大の堀切大橋がかけられてついに全線が完成した。それまでこの国道は、曲がりくねった幅の狭い道のうえ、台風などの襲来でたびたび地すべりを起こしたことから、酷道イクナ線と呼ばれていたが、頂上線が開通することによって距離は一五・五キロ、時間は六十分短縮され、九州と四国を結ぶ重要なルートとなった。</p> <p>国道197号日吉・高研地区 (中略)標高六百メートルを超えるこの地区の道路は、道幅が狭く、急勾配、急カーブが連続している上、冬には雪で路面が凍るなど、幹線道路としての役割を果たせない状況だったため、四国南部の産業・生活の基盤道路として着工したものである。昭和五十六年に完成し、五十分かかっていた所要時間は二十分に短縮、距離も二六・二キロから一六・九キロに短縮された。</p> <p>国道197号鹿野川道路 (中略)鹿野川道路は、鹿野川ダムの付替道路としてつくられたものだが、幅が狭くて曲がりくねっている上、全国でも名高い地すべり地区でたびたび土砂崩れが起き、交通が遮断されていた。(中略)この鹿野川道路は現在も工事を継続中だが、完成のあかつきには南予と高知を結ぶ南北ルートはさらに短縮され、地域の生活や産業に大きな役割を果たしていくものと思われる。</p>

## 道路25 国道197号の一次改築(愛媛県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
愛媛318	八幡浜市誌編纂会編「合併10周年記念版 八幡浜市史 第3巻 地方自治編 教育編 人物編」(八幡浜市、2018年)、142頁	<p>国道197号佐田岬半島道路 (中略)</p> <p>伊方三崎間の頂上線は1987(昭和62)年12月に全線開通した。新国道は佐田岬半島山頂を通り宇和海と瀬戸内海の眺望も絶景で、メロディーラインと呼ばれ親しまれている。道路整備の進捗とともに車の通行が増加し、従来の名坂トンネルは幅員が狭いうえ、車道と歩道の区別がなく歩行者・自転車の通行は大変危険であった。そこで1982(昭和57)年自転車と歩行者専用のトンネルが完成した。これに併せて周辺の歩道も整備された。しかし名坂トンネルは狭いままであり、大型車の離合ができず交通障害となっていたが、2013(平成25)年3月名坂道路の開通により、八幡浜保内間の難所は解消し時間も5分短縮された。</p>
四国1	四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、810頁、812頁	<p>国道197号佐田岬メロディーライン (中略)この道路の完成により八幡浜市より三崎町間は距離にして一五・五キロメートル、時間にして六〇分の短縮となり大洲地方生活経済圏との結びつきがより一層強くなり、この頂上線は両側に海が眺望でき、波の音と風の音をイメージして、愛称を「佐田岬メロディーライン」と名付けられ、六十二年十二月沿線地元住民の盛大な歓迎のなか開通式が挙行された。この完成により、地域の観光開発の促進と活性化など、幹線道路の役割を十分果たしている。</p> <p>国道197号高研山トンネル (中略)これにより現国道延長二六・ニキロメートルが一六・九キロメートルとなり、所要時間で約五〇分から二〇分に短縮され、快適な走行、荷痛みの解消、ならびに四国南部の産業、文化及び日常生活の基盤道路として重要な役割を果たしている。</p>
四国2	建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局三十年史」(四国建設弘済会、1988年)、489-490頁	<p>国道197号 (中略)</p> <p>工事は昭和45年度に佐田岬半島部の八幡浜市～西宇和郡三崎町間が権限代行区間となり、西宇和郡保内町～伊方町湊浦間の通称「大峠」地区が50年度に完成し、前後して八幡浜市最大の交通ネックであった矢の町～大平間が昭和51年度に八幡浜トンネルが完成したことで一挙に解消した。</p> <p>引続き、三崎地区、伊方地区と地域住民の生活道路としての積極的活用をはかる目的で数次に分けて供用した。本路線最大の橋梁である堀切大橋を含む瀬戸地区の完成により着工以来15年の歳月をかけ昭和62年12月、「メロディーライン」と名付けられて全線供用となり、地域の観光、産業、生活に大きな活性化を与えるものとして地域住民より大きな期待がかけられている。一方、高知～愛媛県境において、高研トンネル工事を中心に高研・日吉地区の改良工事を昭和58年度に完成させ地域開発に寄与したものである。</p> <p>(中略)</p> <p>大洲市の市街地を避け八幡浜市への経路の確保と周辺道路の交通環境整備を目的として、大洲西バイパスを昭和57年度に完成させ、八幡浜市～宇和島市間における交通形態の改善に大きく寄与している。</p>

## 道路25 国道197号の一次改築(愛媛県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
四国3	建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局二十年史」(四国建設弘済会、1978年)、402頁	国道197号の整備 (中略) 工事は昭和45年度に佐田岬半島部の八幡浜市～西宇和郡三崎町間が直轄施工区間となり、西宇和郡保内町～伊方町湊浦間の通称「大峠」地区が完成し(昭和46年～昭和50年)前後して八幡浜市最大の交通ネックであった矢の町～大平間が八幡浜トンネルの完成によって一挙に解消された(昭和47年～昭和50年)。また昭和49年頃より西宇和郡伊方地区、同じく西宇和郡三崎地区等で着々と工事が進められ、三崎町内ではすでに一部供用開始され付近住民の生活道路としてその威力をいかに発揮している。